

平成 25 年度 東京農工大学リーディングプログラム養成対象学生 二次募集案内
(リーディング大学院の設置に先行して開始するリーディングプログラム養成対象者の募集)

1. プログラム概要

本学では平成 26 年度以降にリーディング大学院(実践科学専攻)の設置を計画しています。当該大学院は 5 年一貫制の大学院であり、国内外の企業・教育研究機関との連携を通じて、人類の直面する重要課題解決を実現できるリーダーの養成を目指します。この大学院の創設に先立ち、平成 25 年度には、「東京農工大学実践科学リーディングプログラム」として先行プログラムを開始し、本学大学院博士前期課程(または修士課程)に在籍したまま当該プログラムを履修することができるリーディングプログラム養成対象者を募集します。本プログラムでは、食料、環境・エネルギーなど地球規模での幅広い構想力と高い研究力・専門性を有し、幅広い産業分野で活躍可能な以下の能力を有する博士を輩出することを目的として、プログラム修了時には直ちに民間企業等へ就職することを目標としています。

目標とする人材像

- ・ 高度な実践型研究人材として、食料、環境、エネルギーの相互不可分の関係を理解し、人類生存の究極課題に熱意を持って挑戦できる人材
- ・ 複合領域に跨がる広い専門分野の人材を統率してチームを作り、コミュニケーション力をもって国際社会で活躍できる人材
- ・ 目標実現に向かって自らの洞察力で見出した課題について、強い意志で挑戦・実行・完遂できる人材

2. カリキュラム

本プログラムにおける講義科目の一部は英語で実施されます。

キャリア開発科目：自己形成の目標設定とその実現に向けた方法を認識する科目です。

基盤科目：人間力の養成・強化を目的とし、食料生産に関わる倫理、芸術・デザイン、法律、経済、歴史など人文社会系科目を幅広く学び、日本語表現力、説得力、創造力、持久力、交渉力などを育成します。なお、学年の枠を越えて履修可能とします。また、連携機関(上智大学)での講義受講もあります。

基礎専門科目：農学、工学に関する基礎的な専門科目を開講します。農学系の学生は工学系の、工学系の学生は農学系の科目を優先的に履修することを奨励します。

イノベーション科目：イノベーション実践教育プログラムによる実践教育に力を置き、ニーズの把握・価値創造力・チーム形成力・組織間連携力を育成し、科学技術の各論をイノベーション創出につなげる教育を実施します。

国際科目：英語プレゼンテーション科目、英語論文科目、英語環境による定期的コロキウム、国際交流ワークショップを設定します。

社会交流科目：実践型インターンシップとして、企業での活動を経験するとともに、複数教員の指導を受けながら、企業との共同研究参画、または、外部機関との共同による政策提案を行います。また、海外留学として、先端的研究を実践している海外研究機関・大学に派遣します(1~6 箇月)。

研究指導：3 名の教員それぞれから研究指導を受けて、D1 に進級する時点で主指導教員 1 名を確定し、博士論文作成までにわたる 3 年間の主たる研究指導を受けます。

3. 成績評価

統一成績評価システムとして、各科目において、レダーチャート型の成績評価システム（Rader Chart Qualify：RCQ）を導入し、俯瞰的な総合学力の向上を計ります。Qualifying Exam（Queam）※では、5年一貫教育プログラムの3年目（D1, 博士後期課程1年次に相当）に進学する直前の学年（M2, 博士前期課程2年次に相当）に、二段階の評価を行って実施します。また、最終のQueamは5年次生（D3, 博士後期課程3年）の最初に行います。これらQueamとRCQによる成績と内申評価とを合わせて、成績を評価します。※Qualifying Examinationは面接とグループ討論とで実施いたします。

プログラム履修期間中は、本プログラム養成対象者の選抜試験、履修期間中の成績評価等に基づき、本プログラム独自の制度によるTA, RA等に採用し、経済的な支援を行います。また、留学等に必要となる渡航費、滞在費についても経済的な支援を行います。

4. 修了要件

- ・プログラム修了のための標準修業年限は5年とします。
- ・取得総単位数は各所属専攻の所定の取得単位数と合わせて54単位とします。このうち12単位については、本プログラムの科目によるものとします。
- ・プログラム修了には予めレダーチャート型の成績評価システムRCQ、学内研究、海外派遣、企業インターンにおけるプロジェクト立案科目等の成績基準を満たすことを必須とします。
- ・プログラム履修途中で平成26年度以降に設置予定の本学リーディング大学院（実践科学専攻）に入学する場合は、別途当該大学院の基準に基づく履修および評価基準等に従い、プログラム修了認定または博士学位の認定を行うものとします。

5. 応募資格

平成25年度に本学大学院博士前期課程（または修士課程）に在籍し、かつ修士号取得後は引き続き本学博士（後期）課程に進学する意思を有し、さらに本プログラムの教育・研究理念に合致する目標を持つ者。（*本学農学部獣医学科学生については平成25年度における5年生または6年生を募集対象としますが、一部の講義科目等の受講を除き、プログラムの正式な履修開始は当該大学院進学後となります）

最終選考に合格し、本プログラムの養成対象者となった学生は5年間で所定の科目を受講し、一定の単位数を取得後に、プログラム修了証明書を授与します。

※応募にあたっては、各学府において予定している主指導予定教員と連絡をとり承認を得て、研究内容及び面接試験日程等の確認を必ず行ってください。また、プログラム学生に採用された場合は、各指導予定教員へ連絡し、今後の研究計画等の打ち合わせを必ず行ってください。

応募書類：成績証明書（学部在籍時の成績）、添付した書類（別紙1：本プログラム HP (<http://www.tuat.ac.jp/~leading/>) よりダウンロード可能です。）

書類提出先：東京農工大学 小金井地区生物システム応用科学府（BASE）事務室（BASE本館2階）
東京農工大学 府中地区学生支援室教務係前レポートボックス（府中本館1階）

6. 応募・選考スケジュール

応募書類を募集期間中に府中地区学生支援室教務係前レポートボックスに提出、もしくは大学院生物システム応用科学府（BASE）事務室に持参、あるいは郵送で出願する場合は書留速達とし、募集期間中に府中地区学生支援室教務係前レポートボックスに提出したもの、または大学院生物システム応用科学府（BASE）事務室に到着したものを受理します。選考日程は以下の通りです。

募集期間：平成 25 年 3 月 15 日（金）から平成 25 年 4 月 10 日（水）まで

（窓口受付時間：9 時 30 分～11 時 30 分、13 時 30 分～16 時）

書面審査結果通知：4 月中旬

面接審査：平成 25 年 4 月 27 日（土） 本部地区 本部事務局棟 3 階 第 2 会議室

（詳細は面接審査実施の通知時に連絡）

最終選考結果通知：平成 25 年 4 月 30 日（火）を予定

プログラム履修手続き：プログラム履修手続きオリエンテーションを別途実施予定

7. 選考基準

応募書類に基づき、以下の内容を中心に本プログラム履修の適合性を審査します。なお、すでに基礎学力は各学府の入学試験に合格していることから確認されていると判断し、筆答試験は行いません。面接審査も以下の内容に関する 10 分間のプレゼンテーションおよび質疑応答（計 20 分）により採点します。

- ① 本プログラムへの志望動機
- ② 卒業研究の概要と、本プログラムを通じた今後の研究の現時点での展望
- ③ モデルケース（別紙 2）を参照に自身の作製した履修プログラムの概要
- ④ 本プログラム修了、学位取得後の将来構想

8. 採用予定人数

数名程度を予定しています。

9. 問い合わせ先

【事務局】

東京農工大学 戦略企画課 坂本／田中

〒183-8538 東京都府中市晴見町 3 丁目 8-1

電話番号：042-367-5645（直通）

URL：<http://www.tuat.ac.jp/~leading/>

【各部局相談窓口教員】

工学府 細見正明教授（応用化学専攻）／養王田正文教授（生命工学専攻）

農学府 有江力教授（生物制御科学専攻）／田中あかね教授（共同獣医学科）

生物システム応用科学府 神谷秀博教授（生物システム応用化学専攻）／宮浦千里教授（共同先進健康科学専攻）